

# 校長のつぶやき II

校長室便り 第58号

令和3年3月1日 山内

## ○卒業式式辞 — 「一期一会」 — (抜粋)

本日、卒業されるみなさん。おめでとうございます。ご来賓のみなさん及び教職員一同とともに心よりお祝い申し上げます。あわせて、本日の卒業式までご支援・ご協力いただきました、ご家族の皆様・関係者の皆様にこころより感謝申し上げます。

では卒業にあたり、卒業生の皆さんに次の言葉を贈ります。

それは「一期一会」という言葉です。この言葉は茶聖千利休の弟子、山上宗二の「一期に一度の会」が由来になっています。茶の湯における茶会は、庭や茶室、床の間の掛軸や活ける花、客人等のすべてが全く同じでもそれぞれが一回それきりと考えます。そのひと時、その場を同じくする茶会は二度とないため、すべてにおいて最善を尽くします。

「過去」という“かつて”でもなく、「未来」という“これから”でもない「いま、ここ、じぶん」が何よりも大切であるということです。二度と戻ってこないこの時間を大事になささい、この出会いは一度きりかもしれないから、大切に丁寧に向き合いなさい、というような戒めの意味合いで使われていることが多いと思います。隣にいるクラスメイトや担任の先生方。お世話になった友達の家族。もしかするとこの卒業式での出会いが最後になるかもしれない。また会えると安易に思わないで今日の日を大切にしてください。

未曾有の大震災からもうすぐ10年。震災は多くの尊い命を奪いました。その中には皆さんと同じ、高校を卒業したばかりの若者も含まれていました。震災で命を奪われた人たち、大切な家族を失った人たち。彼らは皆、3月11日が最後となるなど考えもしていなかったと思います。皆さんは彼等の分までしっかりと今を生きなければなりません。今を全力で生きること。「一期一会」という言葉を大切にしてください。

さて、私たち教職員は、皆さんの人生の大切な3年間に関わりを持てたことを「誇り」に思っています。卒業生98名の皆さん一人一人を心から「誇り」に思っています。

岩高が地域から支持され、中学生が「入りたい高校」であるためには卒業生の皆さんが社会で思う存分活躍いただくことです。岩高の真価は、卒業生の皆さん一人一人の人生にあります。皆さんには、天から与えられた使命があるはずで、天が皆さんに与えた使命とは何かを求めようように生き、その使命を全うするような生き方を送ってほしいと願っています。それぞれの立場で社会に貢献されることを期待しています。皆さんのこれからの輝かしい人生を祈りつつ、卒業に際しての心からの祝辞といたします。

## ○卒業式会場

コロナ対策で後輩たちは式に出席できませんでしたが、会場準備をしてくださいました。その真心はしっかり式に参加していました。ではこれで今回のつぶやきはお終いです。